

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 097	提案機関名 畜産技術センター企画指導部普及指導課
要望問題名 再生可能エネルギーの有効活用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 TPP交渉の妥結内容次第では、今後の国内畜産経営は大きな打撃を受けるため、従来以上に経営コスト削減に向けた取組みを強化せざるを得ない。 畜産技術センター企画研究課では、電力や化石燃料の削減を図ることを目的に、コンポストなど畜産経営内で発生する熱の回収やその利用を図るための技術検討に既に取り組んでいるが、現地での実証試験までにはまだ至っていない。 そこで、再生可能エネルギーの実用化技術の開発を加速化させるとともに、具体的な現地でのモデル実証試験を早急に実施していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	神奈川県畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 熱回収及び有効活用技術の開発			
対応の内容等 畜産経営は、各作業が機械化され省力化したのが、電気や化石燃料を消費する形態です。 当センターでは、電力や化石燃料の削減を図ることを目的に平成21年より「自然エネルギーを活用した省資源型家畜ふん尿処理技術」に取り組んでいます。この取り組みの中で畜産経営は、電力を消費して熱利用する箇所が数多く見られ、未利用の熱を再利用する観点も必要です。そこで平成25年度からは、「熱回収及び有効活用技術の開発」を実施中で、密閉縦型発酵装置の排気中の熱を回収し利用する技術について検討しております。現在熱交換器を用いて密閉縦型発酵装置の排気中の熱を温水に変換することが可能です。早急に本技術及び現地調査を行う際の課題を整理したいと考えております。また当センターでは、密閉縦型発酵装置以外の堆肥化処理施設への本技術の導入も検討しております。ご提案のような現地実証試験の実施には、経費が伴いますので、畜産課と予算化に向けた調整を進めていきたいと考えております。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			